令和６年度環境保全報告書

１．　2024 年度の重点取組目標・計画の実施状況

1-1　廃棄物の減量および再資源化

(1) 目標

① 廃棄物発生量前年比 1%削減

② リサイクル率前年度実績以上

③ 食品リサイクル率 95.0%以上

(2) 結果

① 廃棄物発生量前年比 105.5%　目標未達成

② リサイクル率 99.75%(前年度 99.59%)　目標達成

③ 食品リサイクル率 100%　目標達成

(3) 要因

① 生産量前年比 100.4%と同等であったが生産アイテム別で瓶製品が前年比 104%と増加したことで梱包用段ボール、瓶プラキャップ等の廃棄が増えた。

② 分別の徹底により非リサイクルである不燃物量が減少した。

③ 2024 年度は工場内で廃棄製品の発生無しの為。

表１．廃棄物の排出状況および再資源化率)

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
産業廃棄物(t)	508.1	379.2	362.2	374.9
一般廃棄物(t)	18.8	15.5	10.9	18.9
廃棄物合計(t)	526.9	394.7	373.1	393.8
前年比(%)	99.6	74.9	94.5	105.5
再資源化量(t)	506.0	376.9	360.7	374.0
再資源化率(%)	99.59	99.40	99.59	99.75

1-2　省エネルギーの推進

(1)　目標

①　エネルギー原単位の前年対比 1%削減

②　効率運転による電力量削減

③　用水使用量の前年使用量以下

(2)　結果

①　エネルギー原単位　前年比　99.6%(-0.4%)　目標未達成

②　電力量　前年比　100.8%　目標未達成

③　用水使用量　40,150 ㎥削減　目標達成

(3)　要因

燃料については高効率スチームトラップへの更新や製造工程見直しにより燃料使用量が減少(前年比 96.3%)したが、電力は例年以上の猛暑により、空調設備、製品冷却及び冷蔵庫等の電力使用量が増加(前年比 100.5%)した。よってエネルギー原単位としては前年比 99.6%で目標未達成となった。用水については用水設備の運用方法見直しにより用水量を削減できた(前年比 90.8%)。

表２．生産量とエネルギー使用量および原単位

項　　目		単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
生産高		千kL	53.4	44.6	44.1	44.3
総エネルギー量		kL	3,211	2,977	2,945	2,943
使用量	電力	千kWh	8501	7840	7680	7746
	燃料	千㎥	923	879	885	856
	用水	千㎥	469	449	449	408
原単位	総エネルギー量	kL/千kL	60.1	66.7	66.8	66.5
	電力	千kWh/千kL	159.1	175.8	174.1	175
	燃料	千㎥/千kL	17.3	19.7	20.1	19.3
	用水	千㎥/千kL	8.8	10.1	10.2	9.2
前年比(原単位)	総エネルギー量	%	106.1	111.0	100.1	99.6
	電力	%	105.4	110.5	99.1	100.5
	燃料	%	79.2	113.9	101.9	96.3
	用水	%	103.7	114.8	101.1	90.8

図１．生産高と電力使用量の関係

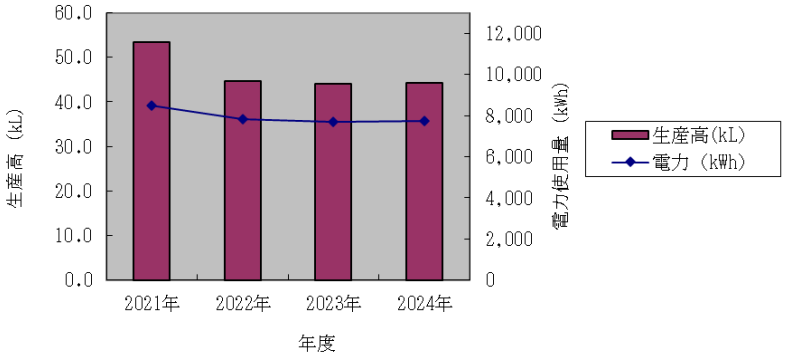


図２．生産高と燃料使用量の関係

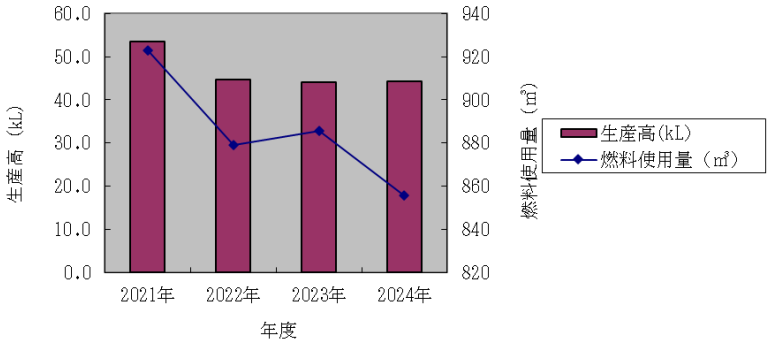


図３．生産高と用水使用量の関係

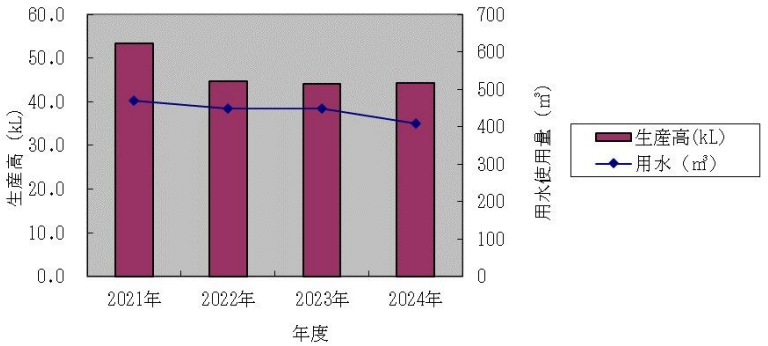
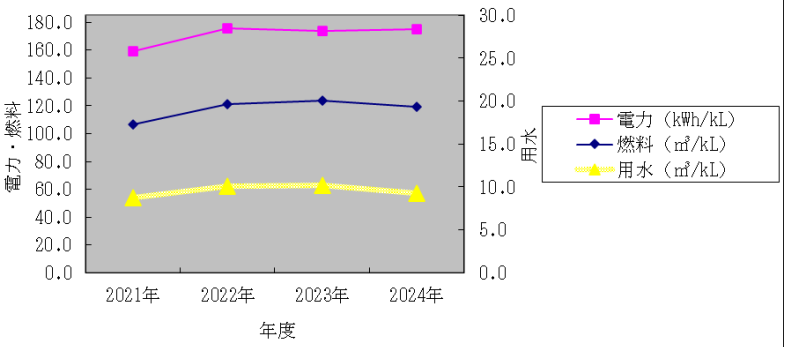


図４．原単位の推移



1-3　環境管理システムの構築

国際規格「ISO14001」の認証を継続し、環境の改善と汚染の積極的予防に取り組んでいます。

1-4　地球温暖化防止対策

(1) 目標

① CO_2 総排出量の前年比で 1%以上の削減(令和 6 年度計画目標)

② CO_2 排出量の基準年度比(2013 年度)で 2030 年度に 50%以上の削減(全社目標)

(2) 結果

① 前年比 97.14%(-2.86%削減)　目標達成

② 基準年度比 40.1%(-59.9%削減)　目標達成

(3) 要因

達成要因としては製造工程見直しや省エネ型スチームトラップへの更新が大きく影響した。

令和 6 年度における電気･燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料等の種類	使用量等	単位	単位発熱量 (MJ)	排出係数 kg-CO_2/MJ	排出量 kg-CO_2	温暖化係数 CO_2	合計 (CO_2換算)
燃料の使用	ガソリン	344.03	L	33.4	0.0686		1	788
	ＬＰＧ	184	kg	50.1	0.0598		1	551
	都市ガス(13A)	855,690	㎥	40	0.0513		1	1,757,017
	軽油	40	L	38.0	0.0689		1	105
	灯油	0	L	36.5	0.0686		1	0
電気事業者から供給された電気の使用	一般電気事業者	7,745,892	kWh	8.64	0.419		1	3,245,529
合計								5,003,990

※1　都市ガスについては環境省 HP の代替値 2.05t/千㎥を利用。ガス使用量ｔ㎥×2.05t/千㎥

当該年度の計画達成状況（二酸化炭素換算　t-CO_2）

CO_2排出量	排出量(t)			削減率(%)	
	前年度	基準年度 (2013 年度)	今年度	今年度	基準年度
	5,150	12,470	5,003	-2.86	-59.9

２．公害防止策に係る報告

２－１　目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策

目標項目		目標達成状況	目標達成の措置・対策
大気汚染防止対策	ばい煙、粉塵、有害大気汚染物質の年間総排出量を把握し、前年度の排出量より削減するよう努める。	窒素酸化物排出量は前年比85.0%となった。 (年間排出量の推移を表３に示す)	ﾎﾞｲﾗｰの燃焼効率の最適化 ・燃焼空気比調整 ・台数制御の変更による燃焼効率の向上。
	ばい煙の排出規制の遵守	全ての項目において排出にかかる目標値を満たした。 (測定結果を表４に示す)	
水質汚濁防止対策	排出水の水質管理及び汚濁負荷の総量管理を行う。	全ての項目において排出にかかる目標値を満たした。 (測定結果を表５に示す)	・排水処理施設の MLSS 濃度管理を強化し、適正管理を継続する。
	富栄養化防止対策の推進		

表３．大気汚染物質の年間総排出量の推移

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
窒素酸化物 t/年	0.719	0.220	0.212	0.207	0.176
(前年比%)	97.6%	30.5%	96.3%	97.6%	85.0%
煤塵 t/年	0	0	0	0	0
(前年比%)	－	－	－	－	－

表４．窒素酸化物濃度等測定結果

貫流ﾎﾞｲﾗｰ	1 号缶	2 号缶	3 号缶	4 号缶	5 号缶	平均値
	R7.2.28	R7.2.28	R7.2.28	休止中	休止中	
窒素酸化物濃度(O_2換算値)(ppm)	14	20	18			17.3
乾き排ガス流量(m^3/h)	599	594	496			563.0
排ガス中のダスト濃度(g/m^3)						
排ガス中の酸素濃度(%)	5.4	5	5.3			5.23

表５．排出水の汚濁状態測定結果

排水口名：総合排水口

項目			目標値(神戸市排水基準値)	測定値 最大(pH のみ 最小～最大)	測定値 平均	全測定回数	目標値を超過した測定回数	目標値達成判定	法令基準達成判定	測定頻度
法令排水基準設定項目（生活環境項目）	1	水素イオン濃度(pH)	5.8～8.6	7.11～8.00	7.36	24	0	○	○	1 回/年(1 回/日)
	2	生物化学的酸素要求量(BOD)	100 以下(80 以下)	2.4	1.3	24	0	○	○	1 回/年(2 回/月)
	3	化学的酸素要求量(COD)	90 以下(70 以下)	7.76	4.46	365	0	○	○	1 回/年 1 回/時
	4	浮遊物質量 (SS)	130 以下(100 以下)	11.6	4.4	24	0	○	○	1 回/年(2 回/月)
	5	ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出物質含有量(動植物油脂類含有量)	15 以下	3.3	1.5	24	0	○	○	1 回/年(2 回/月)
	6	大腸菌群数(1cm^3につき)	(3000 個以下)	156	39	24	0	○	○	1 回/年(2 回/月)
	7	窒素含有量	120 以下(60 以下)	15.48	9.07	365	0	○	○	1 回/時
	8	燐含有量	16 以下(8 以下)	0.83	0.39	365	0	○	○	1 回/時

※1 目標値および測定値の単位：mg/L。PH を除く。

※2 目標値欄（ ）内は日間平均値

※3 目標および法令基準値判定：○＝達成、×＝未達成

※4 測定頻度：法令に定める基準、( )内は自社自主測定。

３．公害防止対策以外の環境保全に係る報告

令和６年度　環境保全活動内容

	分　野	項　目	詳細目標	実施状況
1	事務所、食堂等での一般廃棄物の適正処理・減量化	コピー用紙の使用量削減	両面コピー、Ｎアップ印刷推進	継続中
		空缶･紙パックなどの分別回収	分別表示、従業員教育	継続中
		一般廃棄物の発生量削減	廃棄物分別マニュアル配布、職場での分別指導	継続中
2	自社製品、資材等の再利用・再資源化のための回収の推進	再生紙の使用促進	コピー用紙の再生紙使用	継続中
3	再生製品等の使用	グリーン品購入推進	可能な限り実施	継続中
4	包装及び梱包の合理化	包装材､梱包材の再資源化	容器類のリサイクル化	継続中
5	自動車対策	無用なアイドリングストップ推進	構内車両のアイドリング禁止（保冷車除く）	継続中
6	従業員教育	①廃棄物分別､省エネルギー推進 ②推進緊急事態訓練	①職場目標の設定と継続的改善 ②汚濁物質の漏洩､流出を想定した訓練実施（年１回以上）	継続中
7	地域社会への参画	①工場内外の清掃活動 ②地域清掃活動参加	①１回/月実施 ②定期的参加（年２回目標）	継続中